

ICTを活用したヨーロッパ地誌授業

群馬県立伊勢崎興陽高等学校 原澤 亮太

1. 授業の概要

群馬県高等学校教育研究会地理部会では平成22～23年度、国土交通省主催「教育分野への地理空間情報の活用推進プロジェクト」に取り組んできた。

本研究授業は、昨年度までの取組を受けて今年度、本部会主催で新たに発足した「地理 ICT ワーキンググループ (以下WG)」における実証研究として実施したものである。WGでは教材作成ツールとして海外WEBサイトの活用、各種WEB-GISの利用、製図・画像処理に関する研修が行われた。本研究授業では研修で習得した技術を活用し、ヨーロッパ地誌の導入部分で生徒の興味・関心を喚起し、基本事項の理解、生徒の主体的な考察を促す教材作成を目指した。

なお、授業構成の検討にあたり、生徒の世界地誌やヨーロッパに関する興味・理解に関するアンケート調査を実施した。その結果、「行ってみたい国・興味がある国」ではイタリア、フランスなどが上位に挙がるものの、それらの国が「ヨーロッパ」に属することや位置関係まで把握できている生徒は少ないことがわかった。今回の授業では、導入における基本事項としてこれらの事項もおさえておく必要がある。

2. 生徒の反応

(1) 導入

日本とヨーロッパの位置関係を把握させるため、Google Earthを地球儀にみたてて位置を確認させるとともに、フライトシミュレーションを用いて距離感を把握させた。動画資料への生徒の反応は非常に良く、授業後に実施したアンケートで「ヨーロッパの位置や距離感を理解するのに役立つ資料」として①地球儀の動画(65%)、②フライトシミュレーション(43%)などとなっている。ただし同時に行った地図帳による国名・地名の調べ学習についても、「役に立った」と考えている生徒

が35%いた。

導入部分での地図動画の活用は、興味・関心を喚起するとともに、位置関係等を具体的にイメージしやすいなどの効果があるが、知識の定着を図るには、調べ学習等による生徒自身の活動が非常に重要となることが確認できた。

(2) 展開

ここではWEB-GIS等を利用して作成した数種類の統計地図や衛星画像を見せ、地域特性を考察させた。主題図の読解を苦手とする生徒が多い中、各図面の読み取りやすさを聞いたアンケートでは「よく読み取れた」「ある程度読み取れた」を合わせると8割強という結果であった。画面に映すことにより、同じ図面を教員と生徒全員が共有しながら読み取ることができたことが、大きな要因と考えられる。

一方、生徒の反応を見ていると、図面の読み取りから地域特性の考察に至る過程で、消化不良を起こしている者が複数見受けられた。主題図や統計の読解は、答えが1つとは限らないため、十分な作業時間と発表の機会を与えたうえで、理解につなげる工夫が必要であった。

3. まとめ

授業後、生徒に自由に感想を書かせたところ、「写真や動画を使う方がわかりやすい」「聞き逃しても画面で確認できてよかった」など、【わかりやすさ】を指摘した回答が最も多く、次いで「動画がハイテク・きれい」「あまり飽きない」など【おもしろさ】を指摘した回答が多かった。ICTの活用が興味・関心の喚起、知識・理解の醸成に有効であることを改めて確認できた。また言語活動を促すきっかけにも利用できるため、今後は、情報量を厳選し、生徒の作業や意見交換をより充実できる工夫を行っていきたい。

地理歴史科「地理A」 学習指導案

平成 24 年 12 月 14 日(金) 5 校時(13:35～14:25)

群馬県立伊勢崎興陽高等学校 総合学科 1 年

指導者： 教諭 原澤 亮太

指導場所：多目的室

I 単元について

1 単元(題材)

2 部 様々な地域の生活と環境

第 2 章 世界の諸地域の生活・文化 第 6 節 ヨーロッパの生活・文化

- ① 導入：ヨーロッパとは【本時】
- ② ヨーロッパの統合と課題
- ③ 統合による産業の変化

2 教材観

ヨーロッパを巡る情勢は、EU のノーベル平和賞受賞のように統合の成果が評価される一方、欧州危機の背景にある国ごとの経済格差などの様々な問題も顕在化している。わが国にとっては、人・モノなどの交流における重要な相手地域であり、その動向はメディアが大きく取り上げるなど関心が高い。そのため、こうした状況の背景にある地理的環境、それを踏まえた生活・文化の特色などを理解することは非常に意義がある。

一方、生徒に世界の中で行ってみたい国を問うと、イタリア、フランス、イギリスといった国が上位に挙がるなどヨーロッパに対する関心は高いものがある。しかし、中学校における世界地理の扱いが小さく、日本との距離が遠いこともあってか、位置関係まで把握している者は少なく、知識も断片的なものにとどまっている。生徒の関心を生かしつつ、知識の具体化を図る必要がある。

また、ヨーロッパは統合により国境の意味が薄れつつあり、EU レベル、国レベル、州・県レベルなど、様々な地理的スケールでの考察がしやすく、地理的な見方や読図技能の醸成にとっても有用な教材である。

3 生徒の実態

本校の 1 年生は明るく活発であり、授業にはまじめに取り組む生徒が多い。卒業後の進路希望は就職と進学が半々程度であり、進学希望者は大半が短大・専門学校で、受験をする場合も推薦入試がほとんどである。地理の役割としては、2 年次以降に学習する農業・生活・福祉などの専門教育にむけ、衣食住に関わる多様性を理解させること、将来の社会生活に欠かせない資料活用能力や説明能力を身に着けさせることを心がけている。

授業にはまじめに取り組むが、想像力を働かせ、資料等から推測・考察していくことを苦手としている生徒が多い。また、進路に必要なため、家庭学習は定期試験勉強のみである。活発な雰囲気を生かしつつ、生徒の思考を促せるような工夫をしながら、授業の展開を図っていきたい。

Ⅱ 本時の指導について

1 目標

① ヨーロッパに関する曖昧な知識の具体化

- ・ 生徒の多くは、イギリス、フランス、イタリアといった個別の国名については知っているものの、ヨーロッパそのものや、個別の国の位置関係に関する知識は曖昧なものになっている。
- ・ そのため、ヨーロッパ地誌の導入に当たり、世界地図の中での位置や日本との位置関係、概ねの範囲や国の位置などを理解させることを目指す。
- ・ また、ヨーロッパの人口分布を事例として、資料の読み取りを通し、ヨーロッパの地域構造の概観を理解させる。

② 資料活用と言語活動の機会の充実

- ・ 地理において、地図をはじめとした資料の活用能力は最も重要な技術の1つであるが、本校の生徒は資料の活用や、読解内容の表現を苦手としている。
- ・ そのため、図表、写真などを利用した資料の読解や作業を通し、資料活用能力を養う。
- ・ また、読解内容について他社との意見交換や発表することにより、思考の幅を広げるとともに、学んだことを適切に表現する力を身につけさせることを目指す。

③ ICTの活用による興味・関心の喚起

- ・ 地理で扱う現代世界の諸事象を理解するうえで、写真・動画・カラー図面など具体的かつ視覚的にわかりやすい資料は不可欠である。
- ・ そのためインターネットで公開されている写真や統計を中心とする資料を活用し、視覚教材を作成して提示することにより、生徒の興味関心の喚起・理解の援助を試みる。

2 観点別評価

関心・意欲・態度	・発問に対して積極的に答える姿勢ができています。 ・ヨーロッパの概要について興味・関心をもって授業に臨んでいる。
思考・判断・表現	・与えられた資料に基づき、自分なりの考察ができています。
技能	・地図等の図表を適切に読み取ることができています。
知識・理解	・ヨーロッパの位置や範囲、主要国について、正確に理解している。 ・ヨーロッパの人口分布の特徴について理解している。

3 教材

- ① 教科書 帝国書院「高等学校 新地理A 初訂版」
- ② 地図 帝国書院「標準高等地図—地図でよむ現代社会— 初訂版」
- ③ ワークシート
- ④ 視聴覚教材 ノートPC (Microsoft PowerPoint を使用)、スクリーン・プロジェクタ
 - ・ Google Earth による地球上のヨーロッパの位置・範囲を示す動画作成
 - ・ ヨーロッパの概要を知るための主題図の提示 (夜の衛星写真、人口分布など)
必要に応じて MANDARA、Illustrator、Photoshop 等であらかじめ作成しておく

4 本時の展開

	時間 (分)	学習内容	主な学習活動	支援及び指導上の留意点	評価方法等
導入 (7分)	7	ヨーロッパはどこ？	発問 世界地図の中でヨーロッパの位置はどこだと思う？ ・スライドの地図を見て、ヨーロッパの平面地図上の位置を確認する。 ・球面上での位置関係を確認する。平面地図との見え方の違いに気付く。(復習) ・日本—ヨーロッパのフライトシミュレーション等により、日本との時間距離を確認する。ヨーロッパ地誌学習に対する関心を高める。	・スライドで世界地図を見せ、日本、ユーラシア大陸、ヨーロッパの位置を順に示し、平面地図上での概ねの位置を確認させる。 ・Google Earth (以下GE) の画像でユーラシア大陸を示し、球面上での位置を確認させる。 ・GE の動画で日本—ヨーロッパのフライトシミュレーションを見せるとともに、日本との時間距離を示し、日本との位置関係を確認させる。	・ヨーロッパについて関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 ・世界の中でのヨーロッパの位置、ヨーロッパを構成する山・海、主要国について理解できている。
	5	地図帳でヨーロッパを確認	・地図帳を見てヨーロッパを取り囲む山脈・海洋、主要な国の位置を確認し、ワークシートに整理する。 地図活用	・地図帳を用いて周辺国の位置関係を調べさせ、スライドで確認させる。	・地図帳を用いて、必要箇所の検索ができています。
展開 (38分)	7	ヨーロッパの今夜の明かり	・「夜の明かり」の衛星画像を見て、とくに明かりが集中している場所をワークシートに書き込む。 読図 発問 明るい場所はどのような地域だと思う？ ・各自で考察し、ワークシートに書き込む。必要に応じて地図帳を参照しても良い。	・衛星画像を見せ、ワークシートへの記入を促す。机間巡視で生徒の記入状況を確認し、スクリーンでいくつかの回答を紹介する。 ・明るい場所がどのような場所か考察・記入・解答させる。	・意欲的に作業に取り組んでいる。 ・考察した内容を自分の言葉で説明できている。
	7	人口密度	・人口密度図を見て、夜明るい場所が人口集中地域であることを確認する。 発問 「青いバナナ」はどこの国が含まれている？ ・国名調べの作業内容等を確認しながら、ワークシートの説明文を完成させる。	・人口密度図を見せ、夜の明かりに対する発問・解答について確認をさせる。 ・とくに人口が集中している地域をスライドで示し、「青いバナナ」と呼ばれる地域の説明をする。 ・「青いバナナ」に含まれる国を調べさせ、ヨーロッパの中枢となっていることを印象付ける。	・意欲的に作業に取り組んでいる。 ・ヨーロッパの中枢をなす地域と構成国について理解している。
	7	農業依存度	発問 人口集中地域と人口希薄地域で、農業依存度はそれぞれどうなっている？ ・人口密度図と比較しながら読図し、ワークシートに必要事項を記入する。 読図	・スライドで農業依存度の図を見せ、人口分布と産業構造(農業依存度)との関係について考察・記入・解答させる。	・正確に読図できている。 ・読図結果について説明できている。

	時間 (分)	学習内容	主な学習活動	支援及び指導上の留意点	評価方法等
展開 (38分)	7	ヨーロッパの今 失業率	発問 人口集中地域と人口希薄 地域で、失業率はそれぞれど うなっている？ ・人口密度図と比較しながら読 図し、ワークシートに必要事 項を記入する。 読図	・スライドで失業率の図を見 せ、人口分布と雇用状況との 関係について考察・記入・解 答させる。	・正確に読図でき ている。 ・読図結果につい て説明できている。
	5	読図のまとめ	発問 人口分布にはどういう特 徴があった？ ・ワークシートで作業しなが ら、読図結果をふりかえる。 発問 人口集中地域にはどの ような特徴があった？ 人口希薄地域にはどの ような特徴があった？	・読図結果をふりかえらせ、人 口集中地域と人口希薄地域 に分けて、それぞれの特徴を まとめさせる。 ・人口集中地域の代表的な景観 写真を見せ、具体的なイメー ジを持たせたうえで、産業と 雇用の特徴をまとめさせる。 ・人口希薄地域の代表的な景観 写真を見せ、産業と雇用の特 徴をまとめさせる。	・読図結果の振り 返りができて、 まとめとして説 明できている。
まとめ (5分)	5	今日のまとめ ヨーロッパとは	・スライドを見ながら、本時の 学習内容を再確認する。	・本時の学習内容をまとめたス ライドを見せ、ふりかえりを 促す。 ・読図から見えてきた「域内の 格差」に触れ、次回授業の予 告をする。	